

実証実験等での技術的な課題に対する意見等の精査

東京駅周辺屋内外シームレス測位サービス実証実験(国土情報課)におけるアンケート結果(追加報告)

平成28年7月21日

アンケート実施の概要

- パブリックタグ情報共有プラットフォームを使用したサービスの提供を行う際に必要となる要件を確認するため、一般ユーザー提供用アプリ実証参加者（団体）に対し、以下の項目に関するアンケートを行った。
 - ✓ 位置情報サービスの提供
 - ✓ パブリックタグとプラットフォームの利用
 - ✓ その他

- ※ 回答者は、「東京駅周辺屋内外シームレス測位サービス実証実験」の一環として実施された参加者からご協力いただいた。
 - ハッカソン参加者 31者（第4回WGにて報告済み）
 - アプリ実証参加者 2者

第4回位置情報基盤WG
資料1-4より 抜粋・再掲

- ハッカソン参加者の視点からは、以下の要素が抽出された。
 - ✓ 一般的なナビゲーションや周辺案内及び店舗情報の提供を行うために必要と考える精度は 5m 以下でよい。
 - ✓ 緯度・経度・階層の情報を地下街や屋内測位において、パブリックタグから直接受け取り、サービスに利用できることは有効である。
 - ✓ 多機能で高速処理が可能なAPIの提供と登録情報（位置情報、タグの運用状況）の信頼性を担保する仕組みを持つことが、プラットフォームの利用の動機付けになる。

アプリ実証参加者の視点からは、以下の要素が抽出された。

- 位置情報サービスを提供するうえで重視すべき要素
 - ✓ 位置情報サービスを行うために必要な位置情報精度は1m～5m程度
 - ✓ 精度以外に重視する要素としては、屋外との接合、他施設との接合、階層の判断
- パブリックタグ及びプラットフォームについてのご意見等
 - ✓ 登録情報の取得は、目的に応じてAPI方式とテキスト方式の両方を利用したい。
 - ✓ Wi-FiやBLEからの電波を受信してから、アプリ内での位置情報を利用できるようになるまでの許容時間は1秒以内
 - ✓ タグの設置位置測定精度の信頼性が高いタグは利用したい。
 - ✓ 多数の施設が登録され、シームレスな利用が可能になれば利用したい。

- 実証実験に関するアンケート結果及び第4回WG会議時における関連意見の整理と今後の対応
 - ✓ 実証実験時のアクセスによる不具合は生じなかった。ただし、全国展開された場合のスケラビリティの検討が行われていない。
 - ⇒ 本格運用後のサーバ運用方針については今後の検討課題、現状対応としてはCSV形式テキストファイルの利用が有効
 - ✓ プラットフォームからの登録情報の取得手段としては、事前に位置情報を取得するアプリ開発等を行う場合はCSVによるテキストが使いやすい。
一方、API方式は現地でオンデマンドに取得する場合に利用する。また、ログが残るので設置者のインセンティブに繋がる。
 - ⇒ 目的に応じて有効な手段を利用、APIの多機能化、ログの有効活用の検討
 - ✓ プラットフォームへの登録情報して、パブリックタグの設置位置測定精度の信頼性及び運用（可用性）に関する情報への要望が高かった。
 - ⇒ 標準仕様（案）にタグ情報の品質に関する情報を追加